

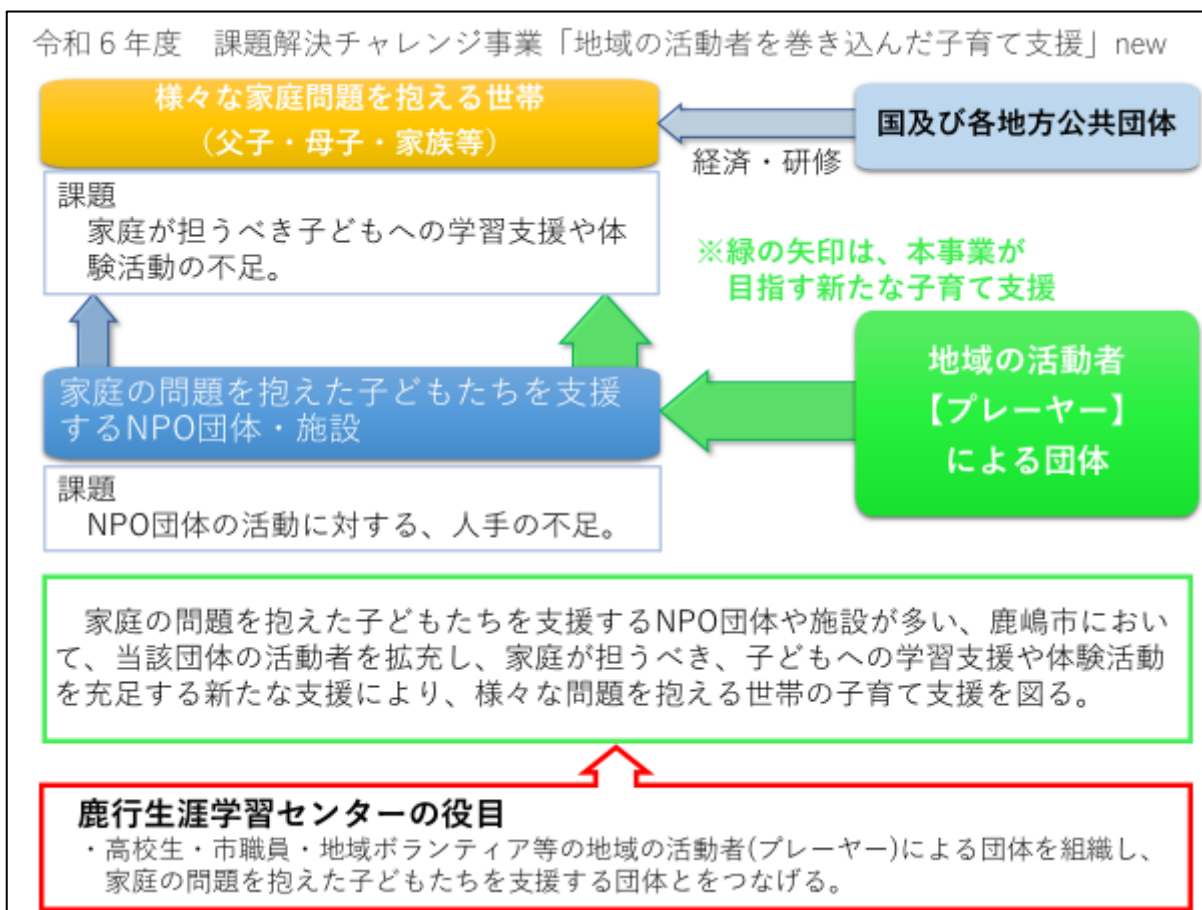
地域の活動者を巻き込んだ子育て支援

I 現状と課題

厚生労働省調査(2021年度)によると相対的貧困世帯の割合は、15.4%となっている。特に、それらの世帯においては、子育てに十分な時間や費用をかけることが難しく、子どもたちにおいては、当たり前な教育機会が得られていない環境にある。国及び各地方公共団体では、そのような状況に対し、それらの保護者に経済的な支援や子育てに関する研修等を直接的に実施しているが、当該研修への対象者の参加率が低く、課題解決の大きな支障となっている。

それらを踏まえ、センターでは、貧困等の家庭問題にさらされている子どもたちを対象に支援策を講じ、様々な家庭問題を抱える世帯の子育てを支援したいと考えた。また、鹿嶋市には、貧困等の家庭問題を抱えた子どもたちを支援するNPO団体が複数ある。これらの施設では、「こども食堂」等の運営、食材の無料提供や放課後・休日の預かり支援を実施しているが、運営団体の高齢化や人材不足により、「もっと友達と話したい」「もっと勉強したい」等、子どもの成長に不可欠なコミュニケーション能力の育成や達成感を持たせる活動が不十分な状況にある。

そこで、子どもの成長に不可欠な学習や体験活動を提供することにより、様々な家庭問題を抱える世帯の子育て支援を図るとともに、これらの支援に当たっては、市内の各公民館における地域の活動者(プレイヤー)が充実しているが繋がりが少ないことを改善する。



資料I 全体像(イメージ図)

- 2 期待される効果
- 子育て支援を行っているNPO団体施設に通う子どもたちに焦点を当て、家庭が担うべき子どもへの学習支援や体験活動の提供を行う。
 - 家庭等での問題を抱えた子どもたちを支援するNPO団体や施設における当該団体の活動者の拡充を図る。
 - 高校生・市職員・地域ボランティア等の地域の活動者(プレイヤー)による団体を組織するとともに、気軽に相談し合えるネットワークの構築や他団体の活動を参考に、新たな活動や活動等に取り組む機運を醸成し、地域としてのセーフティネットを厚くする。

3 事業実践方法

(1) 概要（目的）

- ア モデルプログラム開発を行う交流会議を開催し、モデルプログラムを作成する。
- イ モデルプログラムを任意の団体等の活動場において実践する。
高校生等のボランティアが活動場所へ出向き活動支援をする。ボランティアも一緒に参加し活動すること、次世代の活動者の育成を図る。
- ウ モデルプログラムの検証・改善

(2) 対象者

令和6年度・令和7年度課題解決チャレンジ事業開発委員（10名程度）
 鹿嶋市役所地域づくり推進課職員
 鹿嶋市在住・在学・在勤の方
 鹿嶋市所在のNPO団体職員、ボランティア活動者等

(3) 委員の構成

所属等及び役職
市民生活部地域づくり推進課 係長
一般社団法人かしま青年会議所
一般社団法人かしま青年会議所
茨城県立鹿島高等学校 教諭・KLC 鹿島リーダースクラブ顧問（令和6年）
社会福祉法人 美空野学園 くるりん森 運営スタッフ（統括）
社会福祉法人 美空野学園 くるりん森 Café スタッフ
NPO法人あっとホームたかまつ 代表理事
NPO法人あっとホームたかまつ 事務局
鹿嶋市立波野公民館 館長
鹿嶋市青少年市民育成会議 事務局・指導者
鹿嶋市青少年市民育成会議 指導者
茨城県立鹿島高等学校 教諭・KLC 鹿島リーダースクラブ顧問（令和7年）
茨城県立鹿島高等学校 教諭（令和7年）
県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事
鹿行生涯学習センター 企画振興課長
鹿行生涯学習センター 企画振興課 社会教育主事

(4) 具体的な取組について

① 会議・交流会（議）等

期日	内容	出席者等
令和6年 5月30日（木）	課題選定と共有及び目標の決定、講師の選定等 課題解決のためのテーマ及びゴール設定 会場 鹿嶋市役所 304 会議室	開発委員（オンライン参加含む）及び鹿嶋市役所職員 13名
8月18日（日）	高校生ボランティア参画の実態調査（視察） 会場 鹿行生涯学習センター	開発委員 3名
9月4日（水）	地域の活動者と活動内容の調整及び「実践活動①」の反省と改善について 会場 鹿嶋市役所 304 会議室	開発委員 6名
9月27日（金）	課題解決のためのモデルプログラムの検討 演習：「ボランティア活動証明書について」 KPT法を活用した検討会 会場 鹿嶋市役所 301 会議室	開発委員（オンライン参加）及び鹿嶋市役所職員 11名
令和7年 1月17日（金）	交流会 会場 鹿嶋市立中央公民館	開発委員及び鹿嶋市役所職員 12名
2月25日（火）	モデルプログラムの検証・改善・実施報告 会場 鹿嶋市立中央公民館	開発委員 7名
4月20日（日）	開発委員へ今年度の活動を伝達	開発委員 13名
7月3日（木）	実践研修へ向けての打合せ 会場 くるりん森（鹿嶋市）	開発委員 3名 （会場管理者含む）
7月4日（金）	活動見学会（8月2日）へ向けての打合せ 会場 あっとホームたかまつ（鹿嶋市）	活動者 21名 （開発委員3名を含む）
8月20日（水）	実践研修へ向けての打合せ 会場 くるりん森（鹿嶋市）	開発委員 3名 （会場管理者を含む）
令和8年 1月21日（水）	モデルプログラム実施報告 今後の活動についての情報交換 会場 鹿嶋市役所 302 会議室（鹿嶋市）	開発委員 10名

<工夫点・留意点>

- ・気軽に相談しあえるネットワークづくりに向けて、参集型で実施するために、対象の市役所や市立公民館を活用した。
- ・開発会議には、開発委員以外にも、ボランティア関係を取りまとめている鹿嶋市市民生活部地域づくり推進課職員も希望があれば、その都度参加をしていただいた。
- ・開発会議では、委員が通常行っている活動の中での疑問点や相談したい内容をピックアップした議題についてワークショップを取り入れた。特に、「ボランティア証明書について」は、各団体が独自の形式で作成していたが、証明書を活用する高校生や教諭からの提案が、委員にとって参考になった。また、「ボランティア」という根幹に対する率直な意見を交わすこともできた。
- ・2年目からは、開発委員が主催する事業を活用し、活動者をつなぐ取り組みの具体的な打合せを行った。



【R6年度 第1回モデルプログラム開発会議】



【R7年度 課題解決チャレンジ 報告会】

②研修・ワークショップ・講座等

期日	内容	対象者
令和6年 8月4日(日) 13:30~16:00	研修①地域の活動者ステップアップ研修 バルーンアートを実践活動に取り入れよう！ 講師 大森 佑樹 氏 バルーンアートパフォーマー&アーティスト 会場 鹿行生涯学習センター 大研修室	令和6年度課題解決チャレンジ事業開発委員、鹿嶋市地域づくり課、鹿島高等学校教諭、清真学園高等学校教諭、鹿島学園高等学校教諭、NPO団体、ボランティア団体、ボランティア活動をする高校生及び一般
令和7年 1月17日(金) 18:30~20:30	研修②実践活動実施後、課題解決のためのモデルプログラムの検討及び事例研修会 講師 林 大輔 氏(社会教育士) 真岡市総合政策部プロジェクト推進課まちづくり推進係 真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」事務局 会場 鹿嶋市立中央公民館	研修① 30名 (開発委員及び高校生ボランティア11名を含む) 研修② 28名 (開発委員12名を含む)
8月2日(土) 18:00~21:00	視察研修③開発委員が所属する「NPO法人 あっとホームたかまつ」による自主活動『こどもスポーツナイトフェスティバル2025』を開発委員が視察及び体験し、今後の活動の参考とした。 会場 かみす防災アリーナ(神栖市)	研修③ 開発委員参加者数 8名 イベント参加者 632名 学生ボランティア 30名 ボランティア 40名

<工夫点・留意点>

- ・地域の活動者(プレーヤー)における人材育成・スキルアップ研修として、鹿行生涯学習センターで実施する事業と関連を図り、周知することで人材育成・スキルアップを図った。
- ・研修②は、市中央公民館で出前講座として実施することで、市内で活動する団体や人材への活動の周知が進んだ。
- ・研修③では、開発委員として協力していただいた方が、10年間継続して運営しているNPO法人が主催する事業に参加し、地域の活動者と繋がる方法や活動に参加してもらう方法を共有する場面を設定した。



【R6年度 研修①地域の活動者ステップアップ研修 バルーンアートを実践活動に取り入れよう！】



【R6年度 研修②実践活動実施後、課題解決のためのモデルプログラムの検討及び事例研修会】



【R7年度 視察研修③『こどもスポーツナイトフェスティバル2025』】



【R7年度 視察研修③『こどもスポーツナイトフェスティバル2025』】



③ 実践

期日	内容	対象者
令和6年 7月21日(日) 12:00~18:00	開発モデルプログラム『地域活動者の参画による実践活動①』 「くるりん森マルシェ」当日に高校生ボランティア等の活動者と参加者との「ものづくり体験活動」及びイベント運営の留意点についての実践研修 会場 社会福祉法人美空野学園くるりん森(鹿嶋市) ※交流会を兼ねる	令和6年度課題解決チャレンジ事業開発委員、鹿嶋市地域づくり課、鹿島高等学校教諭、清真学園高等学校教諭、鹿島学園高等学校教諭、NPO団体、ボランティア団体、ボランティア活動をする高校生等
9月21日(土) 9:30~15:00	開発モデルプログラム『地域活動者の参画による実践活動②』 『コミリンピック2024』(主催:神栖四中学区地域コミュニティ協議会)におけるイベント内で高校生ボランティア等の活動者におけるブースの運営についての実践研修 「ディスゲッター」等 会場 大野原コミュニティセンター(神栖市)	実践① 25名(高校生18名は地域の核となる人材・団体育成に計上) 体験活動参加者 約60名 実践② 8名(開発委員及び高校生ボランティア等) 体験活動者 約80名(対象市外のため計上なし)
11月23日(土) 9:00~15:00	開発モデルプログラム『地域活動者の参画による実践活動③』 『わくわくFestival』(主催:一般社団法人かしま青年会議所)イベント内で高校生ボランティア等の活動者におけるブースの運営についての実践研修 「謎解きスタンプラリー」「製作灯籠流し」「手話教室」等 会場 大野潮騒はまなす公園(鹿嶋市)	実践③ 9名(開発委員及び高校生ボランティア等) 体験活動参加者 約300名
令和7年 5月5日(月・祝) 9:00~16:00	改善モデルプログラム『地域活動者の参画による実践活動④』 『くるりん森 こどもの日フェスティバル』(主催:社会福祉法人美空野学園くるりん森)の高校生等のボランティア及び活動者におけるブースの運営についての実践研修 「読み聞かせ・紙芝居(保育サポート)」「工作体験・昔遊び体験・森遊び(活動体験サポート)」「大きなお絵かき体験(体験サポート)」 会場 社会福祉法人美空野学園くるりん森(鹿嶋市)	令和7年度課題解決チャレンジ事業開発委員、鹿嶋市地域づくり課、鹿島高等学校教諭、清真学園高等学校教諭、鹿島学園高等学校教諭、NPO団体、ボランティア団体、ボランティア活動をする高校生等 実践④ 27名(開発委員及び高校生ボランティア等) 体験活動参加者 157名
令和7年 8月23日(土) 14:30~18:00	改善モデルプログラム『地域活動者の参画による実践活動⑤』 『くるりん森 夏祭り』(主催:社会福祉法人美空野学園くるりん森)の高校生等のボランティア及び活動者におけるブースの運営についての実践研修 「水遊び活動サポート」「工作体験・昔遊び体験・森遊び・宝探し(活動体験サポート)」等 会場 社会福祉法人美空野学園くるりん森(鹿嶋市)	実践⑤ 16名(開発委員及びボランティア) ※3高校生ボランティア12名は、ヤングボランティア実践研修に計上 体験活動参加者:217名

<工夫点・留意点等>

- ・実践活動①では、高校生フェスタ企画委員等に声をかけ、実践研修の場としての機会をつくっていただくとともに、地域の子どもたちとの交流や活動に参加する試みを図った。
- ・実践活動②では、開発会議で交流が生まれ、鹿嶋市青少年市民育成会議の高校生と一般社団法人かしま青年会議所のスタッフとのブース運営が行われた。企画から実施ということもあり、当日運営まで会議を5回以上実施し、開催することができた。
- ・イベントが一過性の内容ではなく、大きなイベントの場合には、高校生を含む地域の活動者にも企画から携わってもらえる仕組みや、団体ごとの子育て支援内容の一貫性など、活動者(プレーヤー)や利用者が継続して参加しやすい環境を整えることに配慮した。
- ・イベント等が長時間にわたる場合には、活動者が実施可能な時間を運営者が把握し、緩やかな取り組みを心がけた。また、「開始前・解散後は、来場者として自由参加可能」とするなど、活動者自身が参加者でもあることを配慮した。
- ・高校生ボランティア募集の際には、高等学校への書類の提出方法やボランティア証明書などの配付方法について、相談した。

『地域活動者の参画による実践活動④』タイムスケジュール

9:00～	10:00	10:30～	11:00～	12:30～	13:30～	15:00～
集合・確認・準備	開会行事	読み聞かせ 紙芝居 (保育サポート)	工作体験 ・昔遊び体験・ 森遊び(活動体 験サポート)	大きなお絵か き体験(体験 サポート)	工作体験 ・昔遊び体験・ 森遊び(活動体 験サポート)	閉会行事

『地域活動者の参画による実践活動⑤』タイムスケジュール

14:00～	14:30～16:30	16:30～18:00
受付	水遊び活動 サポート 工作体験・昔遊び体験・森遊び・ 宝探し(活動体験サポート)	花火(活動 サポート) 片付け(順次) 解散

これまでの活動の様子



【R6年度 実践活動①「ものづくり体験活動」(左)、参画の高校生ボランティアと主催者(右)】



【R6年度 実践活動③「企画と当日準備」(左)、「開発委員と高校生ボランティア」(右)】



【R6年度 実践活動③「手話教室」(左)、「製作灯籠流し」(右)等に参画した地域の活動者】



【R7年度 実践活動④ 高校生ボランティア(左)、主催者によるゲストの実演(右)】



【R7年度 実践活動④ 高校生ボランティア(左)、開発委員の運営サポート(右)】



【R7年度 実践活動④ イベント活動終了後の様子(左)、協力者集合写真(右)】



【R7年度 実践活動⑤ 会場準備「流しそめん」(左)、参加者の様子(右)】



【R7年度 実践活動⑤ 流しそめん容器づくり(左)、スイカ割り体験(右)】



【R7年度 実践活動⑤ 水遊び場の設置(左)、高校生ボランティア(当日)打合せ(右)】



4 プログラム全体の検証

(1) 事業相互の関連

令和6年度の事業開始当初の計画では、各団体の施設に通う子どもたちに焦点を当て、学習支援や体験活動の提供を行うことを目指した。しかし、開発会議や打ち合わせ等を通して、継続した活動を行っている団体は、日常の利用者対応と日々の活動を周知するための事業やイベントを別に設定して行っている現状があると判明した。そのため、地域の活動者とのつながりをつくる際に、唐突に日常の活動に組み込むことは難

しく、今回のプログラムでは、特別に設定している事業やイベントの中で、子どもへの学習支援や体験活動の提供を行うこととした。

次に、子どもたちを支援するNPO団体や施設における当該団体の活動者の拡充を図るために、1点目に、高校生の場合、ボランティア活動をきっかけに、継続した活動をする人材になることが想定される。2点目に、地域住民に目を向け、当該団体の活動やイベントに来場者として参加した経験から、子育て支援の重要さを「ジブンゴト」として捉え、活動者に加わるケースが想定される。この2点に注目し、ボランティア等の協力者の負担を減らす取り組みとして、長時間の拘束にならないように、協力できる時間をフレックスにすることやボランティア活動後に参加者としてイベントに加われる仕組みを意識したプログラムの作成を心がけた。

さらに、「地域の核となる人材・団体育成事業」との関連を図ったスキルアップ（研修①）や事例研修会（研修②）、他団体の活動に来場者や活動者として参加する機会（研修③）を意図的に設定することで、それぞれが取り入れたい活動へのきっかけづくりを狙った。

(2) 成果

- ① 参加者の来場時間や運営者の準備時間等を含めプログラムの改善を行った。イベントの規模や回数は令和6年度に比べ減少したが、地域の子育て支援を受けた参加者数は、令和6年度360名、令和7年度374名となり効率的に活動できた。プログラム実施のみの成果とは限らないものの、活動の気運醸成に繋がった。
- ② 地域全体で子育て支援を目指す「こども食堂」のような居場所づくりや多世代交流等の視点を取り入れ、子どもと大人と一緒に体験できる活動が中心のプログラムが構成された。
- ③ 気軽に相談し合えるネットワークの構築という点は、今回の開発委員同士、鹿行生涯学習センターの情報提供や相談機能の活用、市役所、公民館や高等学校との繋がり等を必要な場面で活用することを共有できた。
- ④ 事例研修会（研修②）では、一般の方や高校生なども参加し、地域の活動者が生み出す活動への意義を共有できた（「地域の核となる人材・団体育成事業」との関連）。また、イベントの視察（研修③）では、他市を含めた規模の大きなイベントでありつつ、子育て支援を含めた支援を必要とする方々へのセーフティネットを厚くする取り組みとして、高校生の提案を企画段階から取り入れた活動として一見の価値があった。どちらの研修も参加した活動者が他団体の活動を参考に、新たな活動や活動内容に取り組む機運の醸成することに繋がった。
- ⑤ プログラム全体として、イベントや事業の規模に関係なく子育て支援を必要とする方々へのセーフティネットを厚くする実感を得ることができた。

(3) 課題

- ① 今回の課題への取り組み後に、期待される効果として、「地域の活動者（プレーヤー）による団体を組織すること」も念頭においていたが、新たに団体を組織することは、各団体の活発な活動状況からも容易ではなかった。
- ② 家庭等での問題を抱えた子どもたちを支援するNPO団体や施設における当該団体の活動者の拡充を図ることについては、2年間の取り組みのみで拡充するには至らなかった。活動場所や少数の来場者に焦点を絞った学習サポートという取り組みも、今後の関わりの中で検討したい。
- ③ 学生等のボランティアのサポート体制の充実として、活動に気軽にアクセスできる方法（申込を含む）とボランティア活動の足跡としての証明書（振り返りができる仕組み）の整備を地域や学校に広めていくことが必要である。
- ④ 特別なイベントだけでなく、年間を通じて活動が促進されるようコーディネーターの存在が必要であるとの意見があり、活動者を支援するコーディネーターの養成研修を実施し、活動しやすい環境を整えていきたい。

(4) 今後の展望

最終報告会においても、活発な意見交換がみられた。開発委員として参加してくださった鹿嶋市地域づくり推進課が主体となって、鹿嶋市内でのボランティアのマッチングがスムーズに行える仕組みの開発に向けて取り組んでいる。意見交換では、これまでの経緯をふまえ、各団体が活動する中でのボランティア人材の募集、協力してもらいたい活動内容の情報発信、提示の仕方、活動証明書についてなど前向きな意見が飛び交っていた。本所も鹿行地域のボランティアセンターとして、今後も連携を図っていきたい。

また、ボランティア活動は、奉仕活動や仕事とは異なり「やりたい人がやりたい分をやる」といった理念、身近な困りごとと社会構造への違和感を持つ人が「ジブンゴト」として対象者に寄り添った活動であることを当センターの養成研修、関連する事業や支援を通じて発信していく必要性がある。

さらに、本プログラムを通じて、イベントに参加した来場者からも、活動内容に賛同する方が数名出てきており、ボランティアの活動やNPO活動に加わっているケースも見られた。活動団体によっては、他市の高等学校との連携を図り、体験学習として提供できないかを検討している。今回の実践事例のように、協力者や関係する人材が増えることで、参加者の中から活動者（プレーヤー）を育成する仕組みが生み出される可能性が見られた。地域の方を巻き込みながら、子育て支援がきっかけとなり地域全体の「つながりづくり」に結びつく仕組みの事例として、他地域へ共有したい。